

- ① 所属：三友堂リハビリセンター（さんゆうどうりはびりせんたー）
- ② 協会会員番号：12312
- ③ 氏名：鈴木一美（すずきひとみ）
- ④ 所属県士会名：一般社団法人 山形県作業療法士会
- ⑤ タイトル：「3月11日」から思うこと
- ⑥ 本文：

私はあの地震が起きた時、患者さんと入浴訓練中でした。

ゆらゆらと揺れ、「地震だ」と思いましたが、なかなか揺れがおさまりませんでした。徐々に大きく揺れお風呂のお湯が波打っていきました。若い入浴介助のスタッフが悲鳴を上げ、裸のままの患者さんは、慌て逃げようとシャワーチェアから立ち上がろうとしました。私は波打つお湯をバシャバシャと浴びながらも患者さんを必死に止めつつ、恐怖を感じていました。患者さんも興奮状態で、寒さなのか恐怖なのか震えており、目も充血していました。当然ですよ。裸で体の不自由な患者さんはいかに怖い思いをされたのでしょうか。

あの日、体の不自由な患者さんたちは皆同じ恐怖にさらされたと思います。ベッドの上で身動きの取れない状態で何を思ったのでしょうか。テレビの報道でも、ベッドに横になったまま津波にのまれ流されていく、病院や施設の映像を見ました。何とも言えない思いが今でもこみ上げてきます。何もできない自然の力の大きさと自分の無力さを感じます。

その後も余震が続き、リハを行ないながらも患者さんの安全確保を行い、毎日緊張が絶えない状態が続きました。

地震から3ヶ月が経ちました。山形県は余震の回数も減り、ガソリンや食料品なども震災前と同様のレベルまで戻り、病院の機能ももどってきました。被災地の皆さんはいかがでしょう？まだ十分なリハビリテーションを行なえる段階でないことはお察しします。

そんな中、今、私たちにできることは何なのでしょう？自問しながら日々仕事をしております。被災地でのボランティア？節電？節約？…。日本国民として協力できることはたくさんあると思います。しかし、作業療法士としては何ができるのか、正直まだわかりません。気負わず、冷静に私たちのことから始めていきたいと思っています。

このリレーメールで何か考えられるきっかけになればと思っています。